

YKK への道

- 自己表現力（プレゼンテーションスキル）** 芯を持ってどんな環境下でも物怖じせず堂々とアピールする力
- 一対一でのコミュニケーション力** 目の前の相手と向き合い、聞き上手になりながら会話を楽しむ力
- チャレンジ精神** いままでの挑戦の理由と結果を説明できるようにし、これから挑戦したいことも明確に持つこと

- YKKで働くうえで私が必要と思う SOKA Generic Skill
- 《対人基礎力》
- 《目標達成力》
- 《自己幾成力》

学生生活のTOPICS

【学部1期生】
皆が手探りの状態でしたが、1期の誇りを胸に開拓者の精神でさまざまなことに挑戦できました。特にオーストラリア留学時のプログラムを先生と学生で協力しながら改善できたことはいい思い出です。



【マレーシア研修：ハラールフードプロジェクト】
現地の方と交流しながら、人にとって「食」がどれだけ大切か考えるきっかけになりました。そこから「衣食住」のような身近な事柄に関わっていける仕事がしたいと考えるようになりました。



【中国留学時に行ったアンケート】
授業の一環で中国人学生に日本の印象について聞くインタビューを行いました。そこで日本人に対してポジティブな印象があり、また「日本製」の製品に熱い信頼を抱いてくれていることを知りました。



プロフィール
阿部宏子（関西創価高校卒業/YKK株式会社勤務/TOEIC点数900/新HSK5級/留学先：オーストラリア グリフィス大学, 中国 北京語言大学）

「国際教養学部には、興味をもったことをとことん追求できる環境があります。そこで学べたからこそいまの私がいまです」。日本製品を世界へ届けたい。国際教養学部で見つけた想いを胸に、阿部は今日も奮闘している。

日本人としての誇り、Made in Japanを世界に発信した

2度の留学期間中、事あるごとに日本製品について褒められた。Made in Japan をきっかけに話が弾む。現地の生活を知り、日本製のモノが人々の生活をより良くしていることに誇りを感じた。日本のメーカーから生活に密着したものを届け、世界とつながりたい。その想いを就職活動にぶつけた阿部はいま、世界トップシェアを誇る国内部品メーカーで働いている。

帰国後の阿部はこれまでとは違った。留学で英語力に自信が付き、気持ちと時間に余裕が生まれた。そこで入学前に抱いていた目標を思い出す。「創価大学で学ぶからには語学を身につけたい。英語ともう一言語学ぶのだ」。留学中に中国出身の友人ができた際、英語で会話するものの、互いに母国語でないため伝えきれないことが多々あった。中国語を話せるようになれば、より深く語り合える。その想いのまま、中国研究会に入部。英語の授業に加え、独学で中国語の勉強を続け、3年次には北京語言大学へ留学。半年間中国の地で学んだ。

創価大学に入ったからには、語学を集中して磨きたい

意外にも内容を理解できている自分がいた。国際教養学部に入學してから4か月間、がむしゃらに勉強してきた英語が身についていたのだ。さらに上をめざしたいと、より専門的な授業にも挑戦した。

入学初日、阿部は愕然としていた。オリエンテーションに参加したものの、すべてが英語での説明。何も理解できないまま終わってしまった。英語の勉強が好きで、とにかく留学したいと国際教養学部に入學した。しかし、阿部の自信はみるみる失われていく。寝ても覚めても英語漬けの毎日。「どこにも逃げ場がない」。限界を感じた阿部は、泣きながら「辞めたい」と母親に何度も電話をかけた。それでも「留学まではやるしかない」と踏ん張った。留学先は、ホームステイのできるオーストラリアに決めた。ホストファミリーとともに暮らし、現地の生活を間近で見たかった。大学の授業では、

もがき苦しんだ入学直後、「辞めたい」けれども「留学したい」



阿部 宏子
Hiroko Abe

「母親に何度も電話をかけた」

泣きながら「辞めたい」